

2010年6月～8月

6月

21日 第65回定時株主総会を開催(詳細は5～6ページ)

30日 運航子会社3社の合併を決議

ANAグループの運航子会社であるエア・ニッポンネットワーク、エア・ネクスト、エア・セントラルの3社は、各社の取締役会で合併を決議しました。

合併形態:エア・ニッポンネットワークが存続会社となり、
エア・ネクスト、エア・セントラルを吸収合併
合併期日:2010年10月1日(予定)

30日 エーゲ航空がスターアライアンスに加盟

ギリシャのアテネを拠点とするエーゲ航空の加盟によりスターアライアンス加盟航空会社は28社になりました。



7月

1日 ANA × GUNDAM SKY PROJECTを開始!

ANAとバンダイ、創通、サンライズは、アニメ「機動戦士ガンダム」の“ガンプラ(ガンダムのプラモデル)発売30周年”を記念して、コラボレーション企画を実施。機体側面に実物大のガンダムをデザインした「ANA×GUNDAM JET」が2011年3月末(予定)まで就航します。



詳しくは www.ana.co.jp/gundam/

©創通・サンライズ

1日 マカオ航空とコードシェアを開始



中国華南地区へのネットワークが拡大し、ご旅行、ご出張がますます便利になりました。

詳細は、[ANA](#) [検索](#) → 「プレスリリース」または →
「ANAわかりやすいニュース配信」でもご覧になれます。

1日 国際線の新しい搭乗スタイル「CLICK check-in」スタート

チェックインから搭乗券印刷まで、ご自宅や会社でお手続きができ、空港ではそのまま保安検査場にお越しいただける新インターネットチェックインサービス「CLICK check-in(クリック・チェックイン)」がスタートしました。

※10月21日からは携帯電話でも同様のサービスCLICKモバイル・チェックインを開始予定。

15日 販売子会社4社の合併を決議

ANAグループの販売子会社であるANAセールス、ANAセールス北海道、ANAセールス九州、ANAセールス沖縄は、各社の臨時取締役会で合併を決議しました。

合併形態:ANAセールスが存続会社となり、ANAセールス北海道、
ANAセールス九州、ANAセールス沖縄を吸収合併
合併期日:2010年10月1日(予定)

7月

20日 世界初、機内で注ぐ「樽生ビール」の提供を開始

ANAはホンザキ電機と共同で航空機内で樽詰の生ビールを注出できるビールディスペンサーの開発に世界で初めて成功(特許出願済)。ANA My Choiceの有料メニューの一つとして国内線機内で生ビールの販売を開始しました。(対象路線、対象便限定)

詳しくは www.ana.co.jp/mychoice



※ビールの銘柄は便により異なります。サービス内容は、予告なく変更となる場合がございます。天候など運航上の理由により提供できない場合がございます。

ANAグループは宮崎県を応援しています!

8月4日 ホームページに「宮崎県応援サイト」展開中!

宮崎県誘客企画「来て!みて!宮崎」と連携して、特産品が当たる宮崎線搭乗キャンペーンや旅行企画、国内線機内で宮崎県産飲料「ゆずはっち」の販売など、ANA宮崎応援キャンペーンを実施しています。

20日 2011年3月期(2010年度)下半期の路線便数計画を発表

概要

国際線:10月から羽田空港発着の定期便を就航し、2011年1月以降、成田空港からはジャカルタ線(再開)、マニラ線(新規)を開設します。下半期の生産量(座席キロ^{※1})は前年同期比119%を予定しています。

国内線:増枠に併せて羽田発着路線を拡充します。一方で、需給環境に応じて大阪・名古屋路線の見直しを行います。下半期の生産量(座席キロ^{※1})は前年同期比103%を予定しています。

■下半期路線便数計画

国際線

区分	期日	路線	便数・機種
開設	10/31	羽田—ロサンゼルス 羽田—ホノルル ^{※3} 羽田—バンコク ^{※3} 羽田—シンガポール 羽田—台北(松山)	7便/週、B7-200ER 7便/週、B6-300ER 7便/週、B6-300ER 7便/週、B6-300ER 14便/週、B6-300ER
	2011/2/27	成田—マニラ	7便/週、B6-300ER
再開	2011/1/7	成田—ジャカルタ	7便/週、B6-300ER
増便	10/31	羽田—ソウル(金浦)	14便/週→21便/週、 B7-200ER(14便)、 B6-300ER(7便)
大型化	10/31	羽田—北京 羽田—上海(虹橋) 羽田—香港 成田—上海(浦東)	7便/週、B6-300ER→B7-200ER 7便/週、B6-300ER→B7-200ER 7便/週、夜:B6-300ER→ 昼:B7-300ER 21便/週、B6-300ER(7便)、 A320(7便)、B7-200ER(7便) →B6-300ER(7便)、 B7-200ER(14便)
	10/31	成田—パリ 成田—北京 成田—香港 成田—ホノルル	7便/週、B4-400→B7-300ER 14便/週、A320(7便)、 B6-300ER(7便)→A320(14便) 14便/週、B7-200ER(7便)、 B6-300ER(7便)→B6-300ER(14便) 7便/週、B7-200ER→B6-300ER
減便・小型化	10/31	成田—台北(桃園)	14便/週→7便/週、 B6-300ER(14便)→A320(7便)
減便・機種変更	10/31	成田—瀋陽	7便/週→3便/週、 B3-700→A320
一時運休	10/31	中部—上海(浦東)	7便/週→一時運休

- B7:ボーイング777型機
- B6:ボーイング767型機
- A320:エアバスA320型機
- B4:ボーイング747型機
- B3:ボーイング737型機



ボーイング787型機

貨物:需要の回復、競争環境の変化を念頭に、フレイターの週間運航便数を増加させ、国内・国際を合わせた下半期の生産量(有効貨物トンキロ^{※2})は前年同期比118%を予定しています。

機材:事業規模拡大に対応するために、ボーイング787型機をはじめとした新機材を順次導入します。

※1 座席キロ=座席数×運航距離(キロメートル)
※2 有効貨物トンキロ=有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル)

国内線

区分	期日	路線	便数等
再開	10/31	羽田—徳島	3便/日
増便	10/31	羽田—広島 羽田—高松 中部—千歳 中部—仙台 伊丹—福岡	8便/日→9便/日 5便/日→6便/日 8便/日→8便/日 ^{※4} 4便/日→5便/日 7便/日→8便/日 (2011年1/5より9便/日) 9便/日→10便/日 (2011年1/5より12便/日)
	2011/1/5	伊丹—松山 関西—千歳 福岡—千歳 中部—松山	4便/日→5便/日 1便/日→2便/日(2011年1/31まで) 2便/日→3便/日
減便	10/31	羽田—大分	5便/日→4便/日 ^{※5}
休止	2011/1/5	伊丹—大館能代 伊丹—石見 伊丹—佐賀 中部—米子 中部—徳島	1便/日→休止 1便/日→休止 2便/日→休止 1便/日→休止 1便/日→休止
機種変更	10/1 10/31	千歳—利尻 中部—福岡	1便/日、ジェット機→プロップ機 12便/日、ジェット機8+プロップ機4 →ジェット機9+プロップ機3
	2011/1/5	伊丹—大分 中部—大分	2便/日、ジェット機→プロップ機 2便/日、ジェット機→プロップ機

貨物(フレイター運航便)

2010年ウィンターダイヤ(2010年10月31日～)より、成田・関西から上海(浦東)、台北、大連・天津・青島の各路線を増便致します。

※3 ホノルル発羽田行、バンコク発羽田行は2010年10月30日からの運航。
※4 6～10月の季節増便(8便/日)を期間延長(前年比+1便/日)。
※5 ANA運航便は4便/日に減便し、このほかに3便/日をスカイネットアジア航空の運航便とのコードシェアを予定。

(注)これらの計画は関係当局の認可を前提としております。